

やまがら(山雀)



毎年、冬には自宅に来てくれます。

安倍政権は「人を殺し、殺される」戦争法を撤回せよ!

- 命と人権・平和を大切に、人にやさしい松山市政を実現しよう。
- 教育と子育て予算の増額と、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換しよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍するまちにしよう。
- 再稼動反対! 伊方原発をやめて、子ども達に安心未来を引き継ごう。
- 市民の知る権利と表現の自由を奪う「特定秘密保護法」を廃止しよう。
- 公契約条例を制定し、官製ワーキングプアを無くしていこう。



発行・梶原ときよし事務所



ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。今日にも歴史的悪法である戦争法を強行採決しようとしている安倍政権に対し、満身の怒りを持って糾弾したいと思います。(9月19日に参議院で強行採決)

安倍政権の「力には力で戦争を抑止する」という政策は、再び世界を軍拡競争の時代に逆戻りさせる旗振り役を担うだけでなく、平和憲法の精神を否定するものであり、絶対に許されません。

また、戦争法を施行し、若者を戦場に駆りだすためには、憲法9条を無きものにするだけではなく、もう一つ、日本が過去に犯した侵略戦争の事実を、歴史から葬り去る必要に駆られた結果、今回の戦争賛美教科書である育鵬社採択強行につながったことは間違いありません。

そもそも中学校で学ぶ教科書については、普段から生徒と触れ合い、地域の実情と生徒の現状を一番よく知っている現場のプロの教師が、子ども達の成長過程に見合った教科書を選定することがベストであることは言うまでもなく、誰もが認めるところであります。しかしながら、教育委員会の5人の委員は、松山市立中学校29校のうち、ただの1校からも使いたい教科書として選ばれなかった育鵬社の歴史教科書を選定してしまいました。つまり0対29で現場から否定された育鵬社の歴史教科書をわざわざ選んだということになりました。日頃から歴史教科書を研修し、生徒に教えるプロの中学歴史担当の教師約80人が、延べ300時間以上かけて精読し厳選した教科書が



▲25,000人参加の大集会でした。(東京代々木公園)



▲毎週月曜日12時半から松山市議会議員有志4人、市駅前で戦争法廃止を訴え、街頭演説を行っています。応援に来てください。

(2面に続く)

選定されず、専門家ではない素人の5人の委員がわずか10分の会議で現場を無視した決定をしたことは、絶対に許されません。金本教育委員長は、今回の中学歴史教科書決定を民主的選定だったと考えているのか?

本市立中学29校の選定希望の内訳は、
東京書籍21校
帝国書院8校
※育鵬社は0という結果でした。

松山市教育委員会は(戦争法と連動し、若者を戦場に駆り出すための)戦争賛美(育鵬社)の中学歴史教科書選定をやり直せ!

9月議会一般質問より

梶原ときよし

2015年9月17日

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。私は提案議員4人を代表し、決議案第1号2016年度から使用する本市の中学歴史教科書選定のやり直しと、公正・中立な教科書選定を行なわなかった教育委員会5人の教育委員辞任を求める決議について提案説明を行います。

本市教育委員会の5人の委員は、2015年8月11日に、2016年度から使用する本市の中学歴史教科書について、国連子ども権利委員会の勧告や、近隣諸国をはじめ、現場の教師を含む多くの市民からも戦争を賛美し、偏った歴史観を持つ教科書だと指摘されている育鵬社の中学歴史教科書を選んでしまいました。このことは今月19日の未明に安倍自公政権が、安保法制と称する戦争法を強行採決したことにより、戦争ができる国家づくりの一環として位置づけられており、憲法9条を無きものにさせるだけでなく、日本が過去に犯した侵略戦争までも、歴史から葬り去ろうとするもので、絶対に許してはなりません。

ちなみに2010年国連子ども権利委員会の日本に対する政府報告書審査最終所見には、「日本の歴史教科書が歴史的事実に關して、日本政府による解釈のみ反映しているため、アジア・太平洋地域における国々の子ども達の相互理解を促進していないとの情報を懸念する。本委員会は、アジア・太平洋地域における歴史的事実について、バランスのとれた見方が検定教科書に反映されることを政府に勧告する」としており、子ども達の学習権を保障する教科書としての国際基準を提示しています。

利者に関する特別報告では「歴史教育は、愛国心を強めたり、民族的同一性を強化したり、公的イデオロギーに従う若者を育成することを目的とすべきでない」。

また教師が教科書を選定できる事を可能にすること、教科書の選択は特定のイデオロギーに基づいたり、政治的な必要性に基づくべきではない」と指摘しています。

しかしながら、本市教育委員会5人の委員は、松山市立中学校29校の内、ただの1校からも使いたい教科書として学校報告されなかった育鵬社の歴史教科書を選定してしまつた。

つまり現場から0対29で完璧に否定された育鵬社の歴史教科書をわざわざ選んだことになり、これでは客観性に欠けるだけでなく、とうてい、公正中立な選定とは言えません。

また学校報告に続く、調査部会の調査研究報告書や、採択委員会の意見でもマイナス評価意見はあれど、育鵬社を支持する意見は皆無で、調査研究の成果である3部会の報告は、他社である東京書籍が圧倒的な支持であったことは明白な事実です。

特に問題なのは、教育長と教育委員長が一緒に主張した「調査部会の報告には育鵬社を評価する内容が書いてあるじゃないか」という答弁です。本当にひどいものです。というので、採決の結果、自民・公明他、市政与党等の反対で否決されました。

つまり、今回の決定は、専門家ではない5人の教育委員が学校現場のプロである教師の意向を無視しただけでなく、教科書採択の基本方針までも踏みじり、教育委員5人のみの意見で決定したことに他ならず、絶対に許されません。

また、5人は、教育委員という公正・中立な立場を理解していないだけでなく、学校現場の意見を聞くどころか、全く信用していないこと、或いは自らが行なった行為について、主権者である本市市民に対する説明責任までも拒むなど、教育委員としての基本的資質に欠けることが明白になった以上、即刻辞任をするべきである。

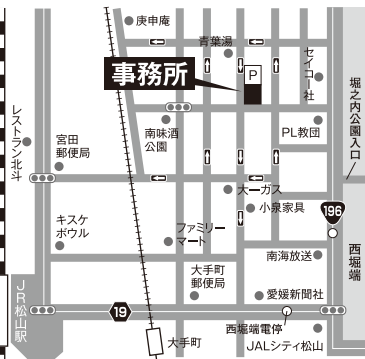
梶原ときよし事務所

〒790-0813 松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258 FAX 089-947-2259
携帯 080-5669-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp

- 午後1時～午後5時まで(月～木)
- 金・土・日・祝日はお休みです。



お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



(戦争賛美の教科書) 育鵬社撤回と教育委員辞任を求める!

(公正・中立な選定をしなかった)

梶原ときよし

2015年9月30日

答弁 教育委員会5人の委員が、各報告書に全て目を通し、各委員の視点に立ち、判断を下し、選定した結果ですので、採択をやり直すことは考えていません。また、その責任も果たしており、辞任する必要もないと考えています。